Love God and Serve His People

聖学院大学

サステイナブルな社会の形成に寄与する「知の共同体／地域のプラットフォーム」へ

清水 正之
聖学院大学 学長

「神を仰ぎ 人に仕う」（Love God and Serve His People）を建学の精神に掲げ、「一人を愛し、一人を育む。」を教育方針とする聖学院大学は、開学当初から徹底した少人数教育を行い、面倒見の良い大学として知られている。幼稚園から大学まで含む学校法人聖学院は、２０２３年の創立１２０周年と、さらにその先を見据え、２０１８年に「聖学院ビジョン」（79ページ）を策定し、その中核にＳＤＧｓを据えた。同年、国連グローバル・コンパクトにも署名・加入し、学院全体としてＳＤＧｓの達成に取り組む姿勢を明確にしている。

２０２２年４月、聖学院大学は新たに「サステイナビリティ推進センター」を開設し、全学的に取り組みを推進していく体制「聖学院大学ＳＤＧｓプラットフォーム」を整備している。サステイナビリティ推進センターを中心に、ＳＤＧｓの達成に向けた教育・実践や多様なアクターとの協働を活性化し、サステイナブルな社会のための「知の共同体」「地域のプラットフォーム」の具現化を加速する考えだ。全学を挙げて推進に乗り出した同大学の理念と現在について、清水正之学長に聞いた。

誰一人取り残さないＳＤＧｓと「一人を愛し、一人を育む。」教育理念が共鳴

聖学院大学は、キリスト教の精神に基づく人格教育と質の高い少人数教育により、一人ひとりの学生を重んじ、他者のため、社会のために貢献する人物を育成してきました。「誰一人取り残さない」を掲げるＳＤＧｓも、根底にあるのは地球上の一人ひとりに目を向け、すべての人の尊厳と平等を尊重する姿勢です。人を大事にすること、そのために行動することを促すＳＤＧｓは、まさに脈々と受け継がれてきた本学の理念と合致します。

また、サステイナブルな社会の実現のためには、多様な人や組織と協働し、目の前の課題を解決していかねばなりません。本学では、幅広い教養と専門的知識を土台に「共感力」「対話力」「実践力」を育む教育を長年実践してきました。このような力を備えた人物こそ、「よき市民」として実際に市民社会の各分野で貢献できると考えています。

こうした背景のもと、大学のみならず学院全体としてもＳＤＧｓ達成を重要な使命と捉え、２０１８年に策定した「聖学院ビジョン」では、「将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成し、『誰一人取り残されない』世界の実現を目指す」ことを目標に据えました。以来、本学および２つの中高を中心に、オール聖学院で多岐にわたる活動を展開しています。

全学的に推進していく新たなフェーズに

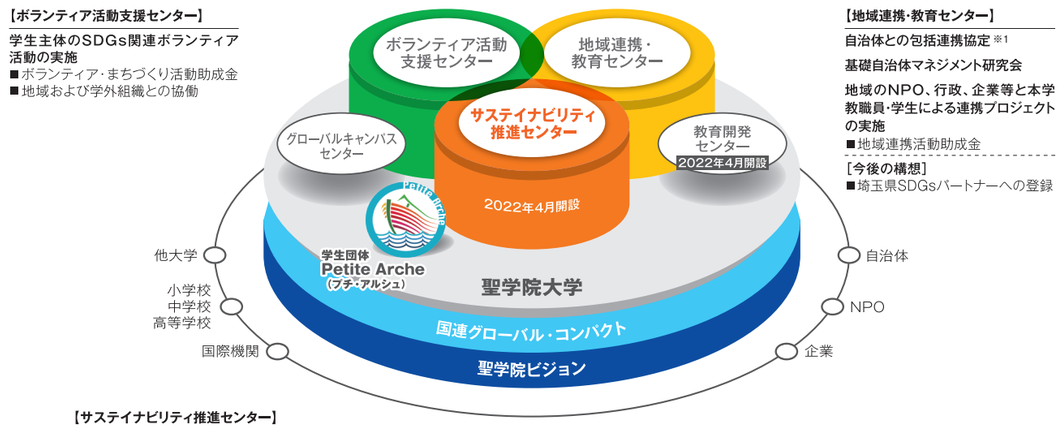
大学としては、２０１９年より一部の学生・教職員を中心にＳＤＧｓに関連するプロジェクトを開始し、徐々に拡充しながら歩んできました。そして２０２２年４月、大学全体で取り組みを活発化させるため、サステイナビリティ推進センターを開設しました。同センターは、全学的な教育活動の中にＳＤＧｓを組み込んでいく役割を担うほか、既存のセンターと協働し、学院各校、自治体や企業、国際機関など、学内外の連携を一層促進していきます。

目指すのは、多様な主体・組織を有機的につなぐプラットフォームであり、専門知を持ち寄り社会課題の解決に挑む知の拠点です。とりわけ地域に根差してきた大学として、地域社会の持続可能性に貢献できる部分は大きいと考えています。さまざまな活動やアクターを結び付けてシナジーを生み、ＳＤＧｓの達成に寄与するとともに、社会における本学の存在感を高めていきたいと思います。

東日本大震災以降、岩手県釜石市で地道な復興支援を続けてきた経験からも、ＳＤＧｓを単なるスローガンにするつもりはありません。教育や多彩な連携を通して実質化を図ること、知識として理解するだけでなく実践につなげることが重要であり、今回その次なる一歩を踏み出したと言えるでしょう。

現在、世界はウクライナ問題をはじめとした大きな危機に直面していますが、ＳＤＧｓやサステイナビリティの根幹にあるのは、平和な社会です。多面的な活動を通して持続可能な社会の実現を目指すとともに、その担い手である平和に仕える人を送り出し、世界のより良い未来に貢献していきたいと思います。

聖学院大学 SDGs プラットフォーム



【サステイナビリティ推進センター】

SDGs推進プロジェクトの実施
- 学食寄付メニュー（国連WFPとの連携）
- サステイナブルファッション
- 公開講演会等のイベント

「持続可能な開発のための教育（ESD）」のカリキュラム化
- 初年次教育（SDGsカードゲーム等）
- 専門科目・演習科目、問題解決型学習（PBL）
- 国内および海外スタディツアー
- 学校法人聖学院の各校との連携

【今後の構想】
- 国連大学認定ESD地域拠点（RCE）の形成およびグローバルRCEネットワークへの加入※2

※1　協定を締結している自治体（締結順）：さいたま市、上尾市、釜石市、春日部市、東秩父村、ときがわ町、嵐山町、小川町、鳩山町、吉見町、川島町、滑川町、桶川市
※2　RCE：Regional Centres of Expertise on ESD（Education for Sustainable Development）

サステイナビリティ推進センターをハブに「聖学院大学SDGsプラットフォーム」を具現化

ESDのカリキュラム化、多様なネットワーク構築を推進

2022年開設のサステイナビリティ推進センターは、「聖学院大学SDGsプラットフォーム」(77ページ)の具現化を目指すうえで要となる存在だ。所長を務める西海洋志准教授は、同センターの目的についてこう語る。

西海　「従来のSDGsに関する取り組みは、プロジェクトベースで一部の学生と教職員が中心でした。今後はすべての学生・教職員がSDGsに関われるような環境を整え、大学全体に浸透させていきたいと考えています」

共に推進に取り組む正森涼子コーディネーターは、サステイナビリティや教育分野で国連機関での勤務経験を持つ専門職の立場から、活動を具体化し、牽引する役割を担う。

正森　「これまで、SDGsやESD（持続可能な開発のための教育）に取り組む地域のための国際的なネットワーク支援に携わってきました。その経験をもとに、SDGs達成に向けた活動を学内で広げ、深めていきたいと思います」

西海 洋志
サステイナビリティ推進センター 所長
政治経済学科 准教授

具体的には、同じく2022年4月開設の教育開発センターと協力し、ESDのカリキュラム化に着手する。持続可能性に関わるあらゆる問題を統合的に捉える教育を全学科で展開する傍ら、既存のSDGs関連プロジェクトを発展・拡大させ、学生の自主的な活動も一層促していく。

西海　「授業を通してSDGsやESDへの理解を深めたうえで、プロジェクトなどの活動に積極的に参加してほしい。また、すでに取り組んでいるボランティアなどが実際はSDGsに関連しているのに、それを認識していない学生が多い。その関連を可視化することも私たちの役割だと考えています」

正森　「グローバルな視点でSDGsに関わってきたこともあり、まずは学生たちが身近な問題に取り組む姿勢を後押しし、それが『世界の課題につながっている』という気付きが得られるようサポートしていきたいです」

正森 涼子
サステイナビリティ推進センター コーディネーター
サセックス大学 国際教育開発学修士課程 修了

並行して、多方面との連携も強化。法人内の小中高と共にPBL（問題解決型学習）を拡充するほか、他の教育機関や自治体、企業、国際機関など、国内外の多様な組織とのパートナーシップを構築する。

西海　「地域密着型の大学という聖学院らしさを生かし、まずは学生と地元の人々や自治体、企業が協働できる場を増やせたら。学生の活動のフィールドを広げながら、地域に開かれたプラットフォームとしての役割を果たしたいと思います」

そのための指針の一つとして、SDGsに取り組む企業・団体を県が認定する「埼玉県SDGsパートナー」への登録を検討中だ。また、その先には国連大学が認定するRCE（ESDに関する地域拠点）ネットワークへの加入も見据えている。

正森　「本学が中心となってRCEを形成し、世界中のRCEと知見や事例をシェアする活動に本学の学生も参加できるようになれば、非常に貴重な経験となるのではないかと思います」

学内のセンターが協働し一人ひとりの挑戦を支える

こうした取り組みを進めるうえでは、学内連携もカギになる。サステイナビリティ推進センターと協働するボランティア活動支援センターでは、SDGsに根差した学生たちの自主的な活動を応援しており、2020年にはSDGs推進を目指す学生団体「Petite Arche（プチ・アルシュ）」の立ち上げ支援等も行っている。また、地域連携・教育センターは、自治体や企業、NPO等とのネットワークを生かし、学生・教職員と地域との協働を支援するほか、包括連携協定を結ぶ自治体との連携を一層深めていく役割を担う。

この他にも、国際交流等を担当するグローバルキャンパスセンターとも協力し、学生のグローカルな活動を促していくという。多岐にわたる連携や取り組みを進めていくサステイナビリティ推進センターだが、西海准教授は「最大の目的は持続可能な社会の担い手の育成であり、学生の成長。我々が主導するのではなく、あくまで学生自身が主体的に考え、発見した課題に寄り添いたい」と話し、正森コーディネーターも、「橋渡しして、伴走するイメージです。足元の課題や世界の課題に気づく力、それを行動に移す力を身に付けてほしい」と続ける。

自ら課題を見つけ、周囲を巻き込んで解決に向けて動いていく力を備えた学生を送り出し、地域・社会に貢献していくため、全学が一丸となり、サステイナブルな社会の実現を目指す聖学院大学の取り組みに、ますます期待がかかる。

University Information
聖学院大学 Seigakuin University
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1
URL:https://www.seigakuin.jp/

サステイナビリティ推進センター
048-781-0079
sustainability@seigakuin-univ.ac.jp

聖学院ビジョン 2018-2023

2023年の学院創立120周年を見据え、SDGsを中核に据えて策定された中期経営アクションプラン。
https://www.seig.ac.jp/vision/

PICK UP! これまでの主な取り組み

SDGs／WFP学食寄付メニュー

2019年12月に学生メンバーが中心となって開始した、学生食堂の売上金の一部を国連WFP（世界食糧計画）に寄付するプロジェクト。SDGsのゴール2「飢餓をゼロに」の実現に向け、開発途上国の子どもたちの学校給食を支援している。

SDGsを考えるカードゲーム

SDGsの考え方を体感的に学べる2種類のカードゲーム「SDGs de 地方創生」「2030 SDGs」の公認ファシリテーター資格を複数の教職員が取得。入学前準備教育や初年次教育への導入を進め、社会問題に関心を抱くきっかけを提供している。

ボランティア・まちづくり活動助成金

2015年度から実施している、地域課題に取り組む学生団体の活動に対して助成を行う制度。SDGs推進学生団体Petite Archeもこの助成金を得て、学内での野菜づくりやグリーンカーテンづくり、食品ロスを減らす取り組み等を行っている。

地域連携活動助成金

2021年度に新たに設立された、学生・教職員および地域のNPO法人、行政、企業などが連携して実施する地域貢献プロジェクトを支援する制度。初年度は3件の取り組みが助成を受け、地域と大学のコラボレーションが進んでいる。

小学校・中学校・高等学校合同防災エコキャンプ開催

2022年3月23日(水)、教育デザイン開発センターの中高生SDGsプロジェクトメンバーである生徒たちが主軸となり「防災エコキャンプ」を開催しました。

防災エコキャンプは災害に備える重要性を学ぶための半日間のワークショップ型プログラムで、参加者は聖学院小学校の児童を対象としました。今回の開催に先立ち、2021年12月23日(木)には中高生がデザインした「災害脱出」「救助看護」「避難所生活」「防災食」の4種類のワークショップを中高生のみで実施しました。そして、より充実した企画内容に仕上げて2回目のワークショップとなる防災エコキャンプに臨みました。50名を超える小学生の参加がありましたが、小学生たちは楽しみながら学ぶことができ、企画した中高生にとってもたいへん有意義な学びの場となりました。